

リニューアルのアートディレクションを手掛けた中野豪雄氏が 「日本タイポグラフィ年鑑2022」でグランプリ受賞

印刷博物館が2020年に実施した常設展、VIツール、館内インフォグラフィックなどのリニューアルに対して、アートディレクションを担当した中野豪雄氏が、NPO法人日本タイポグラフィ協会（理事長：高橋善丸）「日本タイポグラフィ年鑑2022」グランプリを受賞しました。



印刷博物館 展示室

■ 「日本タイポグラフィ年鑑」について

「日本タイポグラフィ年鑑」は、1969年に「日本レタリング年鑑」としてスタートした年鑑で、海外でも評価の高いタイポグラフィ・デザインの記録です。広く海外からも作品を一般公募し、会員から選ばれた審査員により、タイプフェイス、ロゴタイプ・シンボルマーク、VI、グラフィック、エディトリアル、研究・実験など10の部門で評価するもので、「グランプリ」は全応募作品の中から1点が選ばれます。今回は「VI ビジュアル・アイデンティティ」「環境・ディスプレイ・サイン」「インフォグラフィックス」3部門でのベストワーク受賞を総合してグランプリに選出されました。

・「日本タイポグラフィ年鑑」

<https://www.typography.or.jp/pub/pub-new.html>

■ 中野豪雄氏について

アートディレクター・グラフィックデザイナー、株式会社中野デザイン事務所代表、武蔵野美術大学教授、日本タイポグラフィ協会理事。2016年より印刷文化学検討委員として印刷博物館のリニューアルプロジェクトに携わり、「天文学と印刷－新たな世界像を求めて」展（2018年）では展覧会のアートディレクションを担当しました。

■ 印刷博物館のリニューアルについて

印刷博物館は凸版印刷株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役社長：磨秀晴）が創立100周年を記念し、2000年10月に設立した公共文化施設です。以来、印刷全般に関する本格的な博物館として、企画展の開催や、印刷工房を中心とした教育活動などを通して、社会、文化の発展に貢献してきた印刷の役割と意義を広く発信しています。

2020年10月には、日本の印刷文化を扱う「印刷の日本史」をメインテーマにした常設展のほか、ロゴタイプやVIツール、館内インフォグラフィックなど大規模なリニューアルを実施しました。

- * 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。
- * 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上